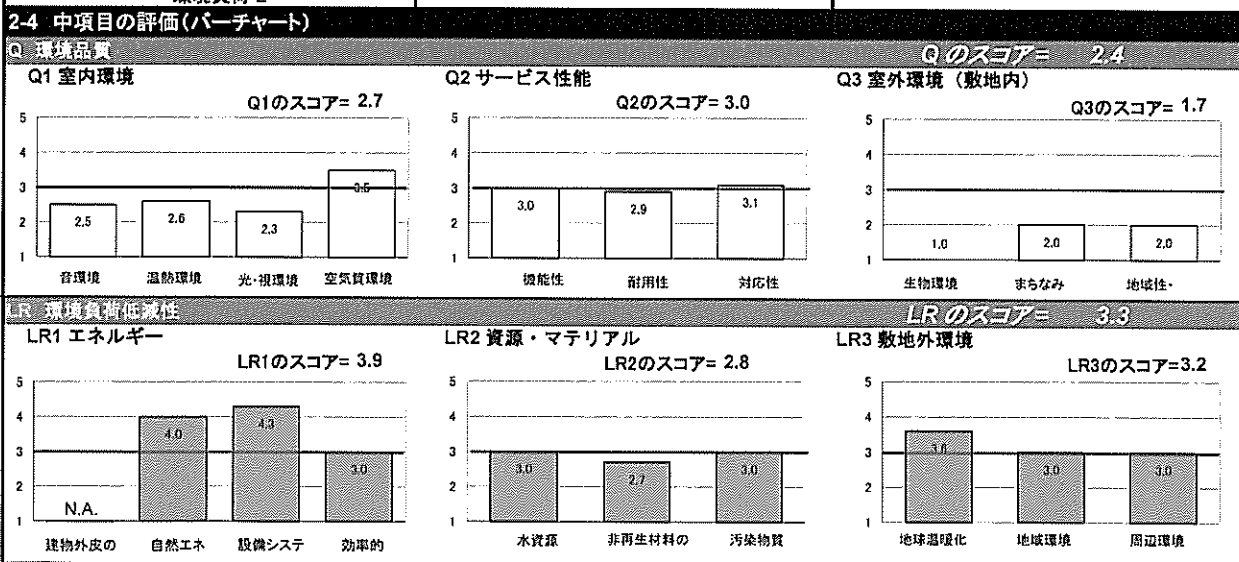
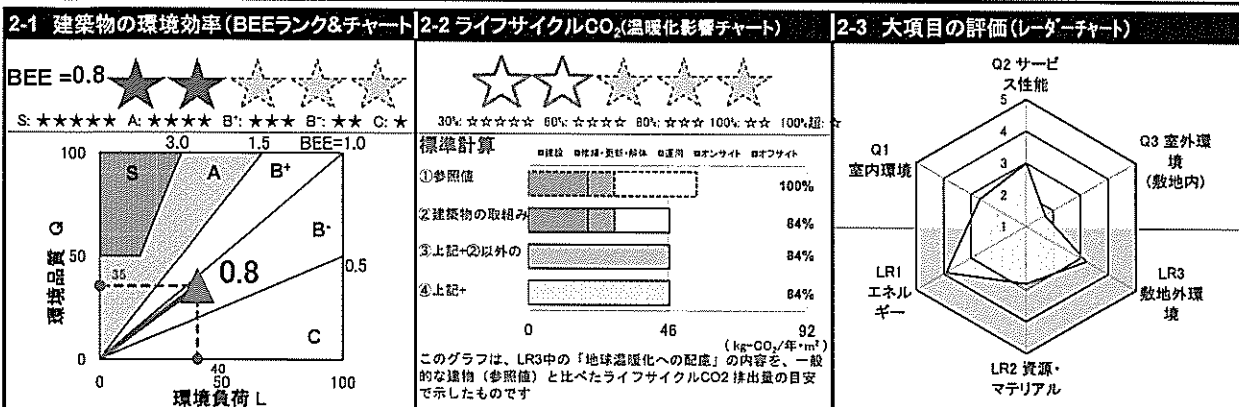


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社ケイティエフ新工場	階数	地上2F
建設地	京都府城陽市寺田塚本67番1外	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	40 人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2019年1月10日
敷地面積	4,597 m ²	作成者	株式会社奥田工務店一級建築士
建築面積	2,297 m ²	確認日	2019年1月11日
延床面積	3,612 m ²	確認者	株式会社奥田工務店一級建築士事務所 北川 昭市



3 設計上の配慮事項		
総合 高効率機器を積極的に採用し、省エネルギー性に配慮し、環境負荷の低減を図った。		その他 特に無し
Q1 室内環境 F★★★★の建材を積極的に採用したほか、事務所部分には昼光による採光を確保可能な窓を計画することで、豊かな居住環境となるように配慮した。	Q2 サービス性能 配管部材については、耐用年数の長いものを採用したほか、長期に建物を使用するにあたり、維持管理が容易な部材の選定及び室の配置計画を行った。	Q3 室外環境(敷地内) 建物の配置計画については、敷地や道路境界から極力距離を確保することで、周囲に開けた建物となるように配慮した。
LR1 エネルギー 建物内設備にはLED照明等の高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。	LR2 資源・マテリアル 事務所の床にはOAフロアを採用し、部材の再利用化を図った。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂を低く抑えることにより、長期にわたり環境負荷を軽減し地球温暖化の防止に付与できる建物となるように配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される